

 **GOOD DESIGN AWARD 2016**

2016年度グッドデザイン賞

審査委員チュートリアルブック

拝 啓

貴社ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。

この度はグッドデザイン賞審査委員をお引き受けくださり心より御礼申し上げます。
グッドデザイン賞では「よいデザインに込められた思想や方法論」などを世の中に伝えていくと同時に、それらデザインから導き出される新たな可能性を発見・伝達することにより、次なる社会への推進剤となるべく活動をしております。審査委員の皆様におかれましては、その立役者として審査のみならず当会が企画する様々な場において活躍していただきたく考えております。

ご多用のところ大変恐縮ですが、何卒、ご理解とご協力のほど宜しく願いいたします。

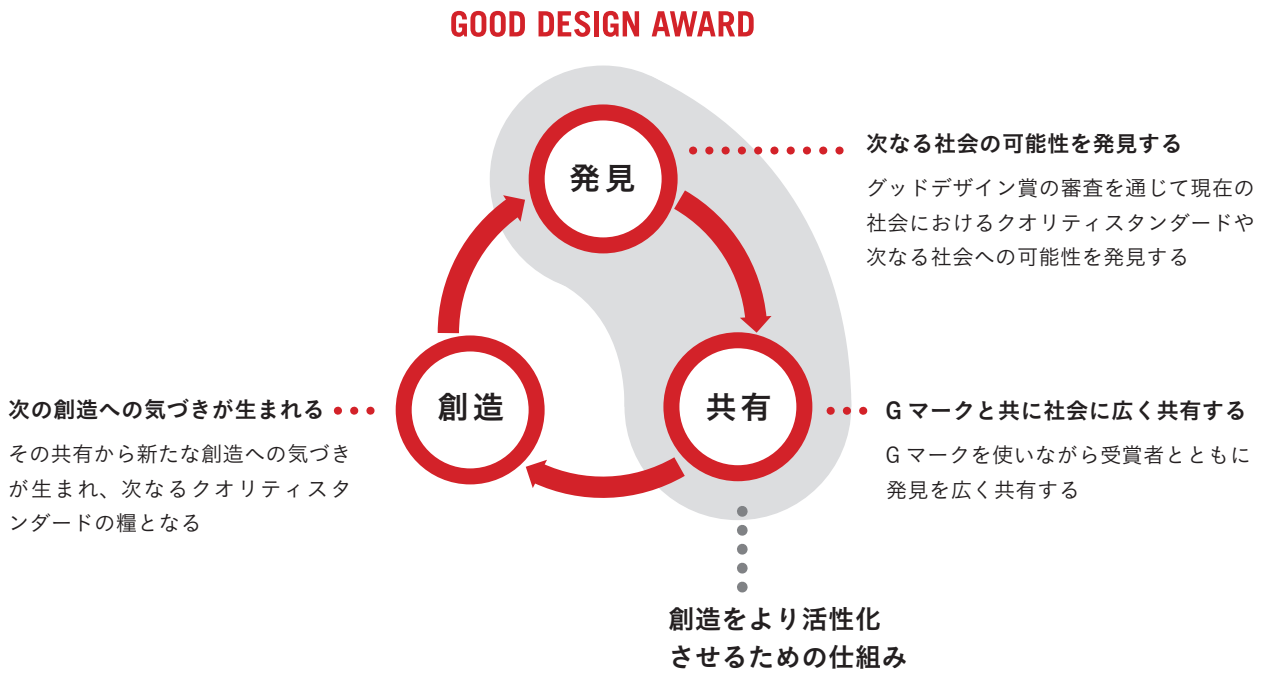
敬 具

目 次

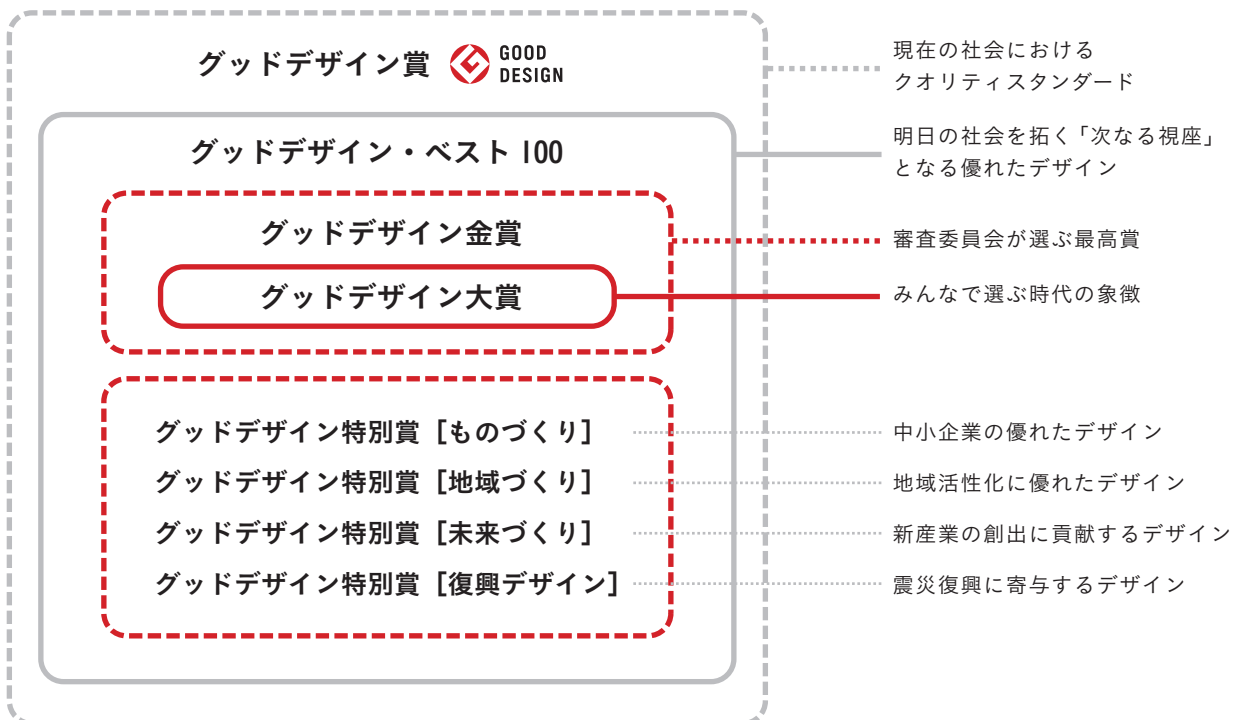
1	グッドデザイン賞全体の仕組みとスケジュール	2
2	審査委員のタスクとミッション	4
3	フォーカス・イシューについて	4
4	審査委員推薦	5
5	審査の考え方と方法	6
6	審査の詳細	7
	6-1. 基本的なルール	7
	6-2. 一次審査	7
	6-3. 二次審査	9
	6-4. 共有（発表と表彰）	14
	6-5. その他	15

1 グッドデザイン賞全体の仕組みとスケジュール

グッドデザイン賞は、様々な展開される事象の中から「よいデザイン」を選び、顕彰することを通じ、社会全体をより豊かなものへと導くことを目的とした総合的なデザインの推奨制度です。グッドデザイン賞は単に「よいデザインを選ぶ」制度ではなく、以下の3つの循環を通して応募者とともに協働することにより、次なる社会の創造へ繋げていく仕組みです。



グッドデザイン賞の種類と位置づけ



発見

共有

応募期間

一次審査

二次審査

受賞発表・表彰

4/6 応募受付開始

6/1 応募締切

～6/3 審査委員推薦の募集

6/8 審査委員全体会議

13:30～16:30
@東京ミッドタウン4F

6/9～16 ウェブ審査

～6/17 審査委員推薦の追加募集

6/23 一次審査判定会

13:30～16:30
@東京ミッドタウン4F

6/29 一次審査結果発表

7/26～28 二次審査会

各日10:00～18:00
@東京ビッグサイト

8/18 審査確定会

11:00～12:00
@東京ミッドタウン5F

8/18 ベスト100選考会

13:00～17:00
@東京ミッドタウン5F

8/19 金賞および特別賞審査会

11:00～17:00
@東京ミッドタウン5F

7/28～8/26 評価コメント執筆

9/29 受賞発表

10/28 受賞祝賀会・大賞選出

@グランドハイアット東京

10/28～11/3 受賞展

審査報告会

@東京ミッドタウン

ベスト100プレゼン

フォーカス・イシュー提言

2017年3月 年鑑発刊

2 審査委員のタスクとミッション

発見 = 審査

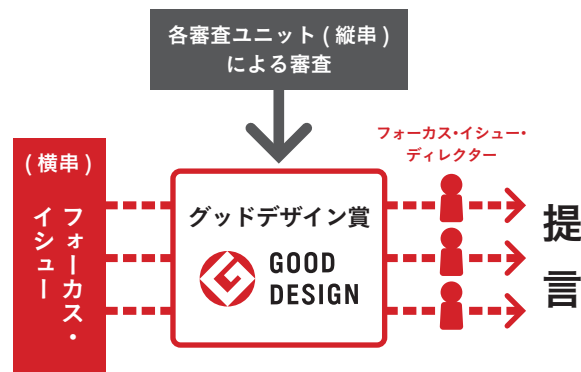
- グッドデザイン賞の審査（7～15ページ参照）
- 審査委員推薦候補の推挙（5ページ参照）
- グッドデザイン・ベスト100 および 金賞・特別賞の審査（12～14ページ参照）
※リーダー、フォーカス・イシュー・ディレクターのみ

共有 = 発表と表彰

- 審査の評価 および アドバイスコメントの執筆（14ページ参照）
- 審査報告会への出演（15ページ参照）
- 受賞祝賀会 および 大賞選出への出席（15ページ参照）
- フォーカス・イシュー提言の執筆（15ページ参照）
※フォーカス・イシュー・ディレクターのみ

3 フォーカス・イシューについて

フォーカス・イシューとは「今後社会が向き合わなければならない課題」について「横串を刺しながら、新たな可能性や兆し（提言）を見つける」ためのガイドライン（補助線）です。審査を通じてフォーカス・イシューについて議論を行い、新たな発見を各フォーカス・イシュー・ディレクターが「提言」としてまとめ、社会に発信します。



2016年度のフォーカス・イシュー（9イシュー）

- 地球環境と共生
- 都市と社会基盤
- 地域社会とローカリティ
- 技術と情報
- 医療と健康
- 安心と安全
- 教育と学び
- ビジネスモデルと働き方
- 文化と生活様式

各フォーカス・イシュー・ディレクターのタスク

- 各イシューにおける時代の傾向や可能性を示すキーワードの執筆
- 各イシューの傾向と今後の可能性について言及した提言文の執筆（2,000字程度）

4 審査委員推薦

審査委員推薦制度とはよいデザインを顕彰するために「グッドデザイン賞に応募されていない対象へ審査委員の見識をもって応募を呼びかける制度」です。

【審査委員推薦のルール】

1. 推薦可能な対象

優れたデザインであると審査委員がその見識をもって推薦できるもの。

ただし、審査委員自身がデザイン・コンサルティングした対象を自薦することは出来ません。

2. 推薦された対象の取り扱い

推薦された対象を審査する審査ユニット内で検討を実施し、当該審査ユニットで審査委員推薦に値すると判断された対象について、事務局より応募勧誘を実施します。

3. 推薦により応募された対象の審査

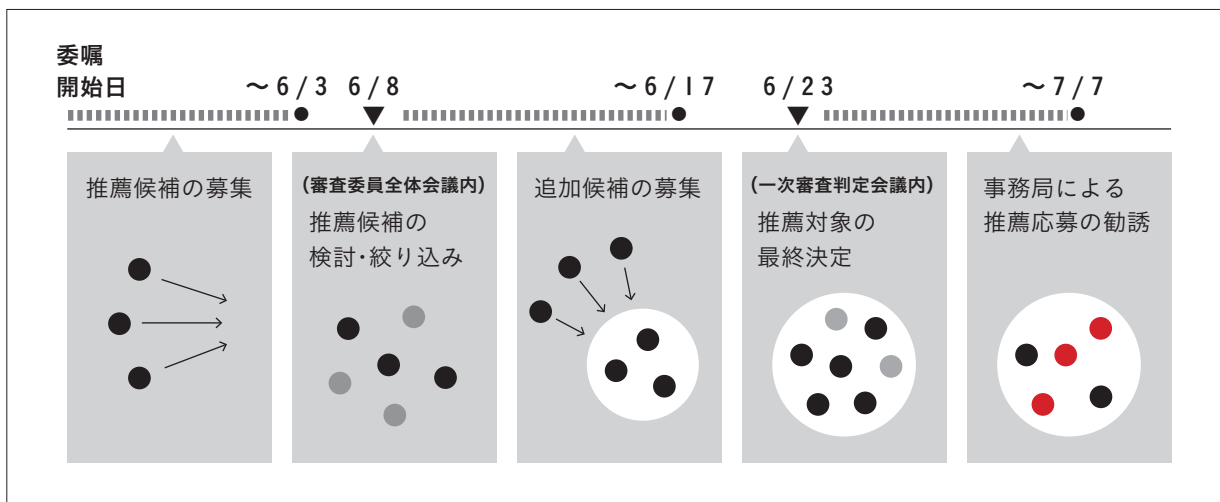
推薦により応募された対象は一次審査をつうかしたものとみなし、二次審査会から参加します。

なお、推薦により応募された対象であっても、二次審査は通常の応募対象と同等に審査します。

4. 費用

推薦により応募された対象は二次審査料を免除します。

【審査委員推薦のプロセス】



5 審査の考え方と方法

【審査の基本的な考え方】

1. グッドデザイン賞ではデザインを「常に人間を中心に考え、目的を見出し、その目的を達成する計画を行い実現化する行為」と考えます。
2. デザインに込められた思想や方法論が「今後の社会においてよきお手本となりうるものであるか？」を最重要視します。
3. 社会を推進することを目的に「今後の展開や秘められた可能性」も含めて審査します。

【審査の視点】

上述の基本的な考え方をもとに「人間」「産業」「社会」「時間」という4つの視点から応募対象を観察し、総合的に判断してください。

人間的視点 <ul style="list-style-type: none">○ 使いやすさ・分かりやすさなど、ユーザーに対してしかるべき配慮が行われているか○ 安全・安心・環境・身体的弱者など、信頼性を確保するための配慮が行われているか○ ユーザーから共感を得るデザインであるか○ 魅力を有し、ユーザーの創造性を誘発するデザインであるか
産業的視点 <ul style="list-style-type: none">○ 新技術活用や創意工夫によりたくみに課題を解決しているか○ 的確な技術・方法・品質で合理的に設計・計画されているか○ 新産業、新ビジネスの創出に貢献しているか
社会的視点 <ul style="list-style-type: none">○ 新しい作法、ライフスタイルなど、新たな文化の創出に貢献しているか○ 持続可能な社会の実現に対して貢献しているか○ 新たな手法、概念、様式など、社会に対して新たな価値を提案しているか
時間的視点 <ul style="list-style-type: none">○ 過去の文脈や蓄積を活かし、新たな価値を提案しているか○ 中・長期的な観点から持続可能性の高い提案が行われているか○ 時代に即した改善を継続しているか

【審査のウエイト】

グッドデザイン賞に応募される対象には大きく分けて「十分な実績を積んだ改善型」と「全く新しい新規型」の2種類があります。改善型については「デザインの適切性」を重視し、新規型については「将来の可能性」を重視して審査を行ってください。ただし、新規型においてもデザインとしての品質が全く伴わないものはよいデザインとは判断し得ません。

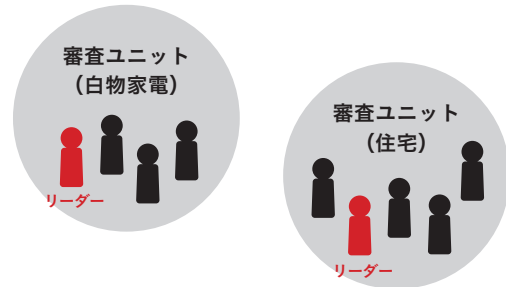


6 審査の詳細

6-1. 基本的なルール

1. 審査ユニット

グッドデザイン賞の審査は、1チーム4～5名からなる「審査ユニット」を組み、そのチーム毎に割り当てられた応募対象を審査します。それぞれの審査ユニットには取りまとめを行う「リーダー」をおきます。リーダーは審査委員長・副委員長が選任します。



2. 自身が関与した対象への審査介入禁止

審査委員長、審査副委員長、審査委員は、審査委員自身がデザインまたはコンサルティングした審査対象を審査することはできません。関連情報の提供を含め、その対象の審査に関わることを一切禁止します。

3. 守秘義務

すべての審査委員は、審査開始以前に主催者に守秘義務に関わる誓約書を提出し、審査対象に関わる機密情報ならびに審査経緯など、審査を通じて知りえた秘密情報を第三者に漏らすことを一切禁止します。

6-2. 一次審査

■ 審査委員全体会議

今年度の全体方針や具体的な審査方法、方針等を確認するための会議です。

タ
ス
ク

1. 審査方針の策定、審査委員推薦の検討

担当ユニットに応募された対象のリストを確認し、リーダーを中心にディスカッションを行った上で、審査の方針を策定してください。

2. 審査委員推薦対象の検討

審査委員推薦候補のリストを確認し、リーダーを中心にディスカッションを行った上で、審査委員推薦を行う対象の選定、追加する審査委員推薦対象について検討を行ってください。

3. ユニット移動対象の検討

応募対象のリストを確認した上で、「審査ユニットを移動させた方がよい」と判断できるものについては、移動予定先の審査ユニットと相談の上、その方針を決定してください。ただし、応募されたカテゴリーは「重視して欲しい点に関する応募者からの宣言」でもあるため、なるべくこの意志を尊重してください。ユニット移動に関しては以下の基準をもとに行ってください。

A. 応募対象の内容および主旨が担当する領域と明らかに違うもの

B. 当該ユニットでは評価が期待されないが、他のユニットでは評価される可能性があるもの

■ ウェブ審査

一次審査判定会を効率的に行うための個人評価です。

タ
ス
ク

1. 「○×」の評価記入（必須）

担当ユニットの応募対象情報を確認の上、審査方針および審査の視点と照らし合わせた上で、各応募対象に「○×」の評価を記入してください。

2. コメントの記入（任意）

「○×」の記入と併せて他の審査委員に対して伝達したいことがある場合は、その内容をコメント欄に記入してください。

■ 一次審査判定会

「二次審査として現物を審査する必要性のあるものを抽出すること」を目的に、一次審査の可否の判定を行う会です。

タ
ス
ク

1. 一次審査の可否判定

リーダーを中心にディスカッションを行った上で、各応募対象の一次審査結果を確定してください。

2. 審査委員推薦対象の確定

リーダーを中心にディスカッションを行った上で、審査委員推薦として応募勧誘を行う対象を確定してください。

3. 追加資料を求める対象、または特別な審査を行う対象の検討

プレゼンテーションや現地審査、または動画等による追加資料の確認など、特別な対応を行う応募対象の検討を行ってください。

一
次
審
査
の
判
断
基
準

グッドデザイン賞の審査は「応募対象の現物を確認して判断する」ことを原則としていますので、一次審査は「明らかにグッドデザイン賞を取る水準ではないと確実に判断されるもの」のみを不通過として下さい。判断基準は以下です。

【不通過判断基準】

1. グッドデザイン賞の理念から逸脱している

社会的な道義や倫理に反するものや社会的な誠実さに欠けるものなどについては不通過としてください。

2. 応募ルールに抵触する恐れがある

「2017年3月末までにユーザーが購入・利用できる」という応募条件を明らかに満たし得ないと推測できるものは不通過としてください。

3. 価値や品質が明らかに低いと推測されるもの

品質や価値の程度が明らかに低いと推測されるものは不通過としてください。

■ 事務局による判定結果の確認

一次審査判定会の結果について事務局によってその妥当性を確認します。

審議事項が生じた場合には、各審査ユニットで再度協議の上、審査結果を確定します。

6-3. 二次審査

■ 二次審査会

審査会場に設置された応募対象の現品（搬入が困難な対象は代替物）を確認し、グッドデザイン賞の合否判定を行う会です。

タ ス ク

1. 二次審査の合否判定

二次審査を通過した対象は、審査確定会を経てグッドデザイン賞受賞となります。応募対象現品や対話型審査等を踏まえ、リーダーを中心にディスカッションを行った上で、各応募対象の二次審査結果を確定してください。

2. ベスト 100 候補の選定

グッドデザイン賞では「未来を示唆するデザイン」として評価の高い受賞対象 100 件を「グッドデザイン・ベスト 100」として公表し、この中から金賞・特別賞を選出します。二次審査会の結果を踏まえ、リーダーを中心にディスカッションを行った上でグッドデザイン・ベスト 100 候補の選出を行ってください。

3. アドバイスコメントを行う対象の抽出

応募者に対して今後の「気づき」を提供するため、その合否にかかわらず応募者に対してアドバイスコメントを伝達しています。リーダーを中心にディスカッションを行った上で、アドバイスコメントを行う対象の抽出を行ってください。

4. アドバイスコメント・評価コメントの執筆担当決め

グッドデザイン賞を受賞したすべての対象について「どこがよいデザインであるか」を審査委員の評価コメントとして公開します。リーダーを中心にディスカッションを行った上で、上述のアドバイスコメントと併せて執筆する担当の割り振りを行ってください。

5. ベスト 100 候補の確認（リーダー、フォーカス・イシュー・ディレクターのみ）

審査会 3 日目に審査委員長・副委員長、各審査ユニットリーダー、フォーカス・イシュー・ディレクターによってベスト 100 候補の確認を行います。各リーダーは自身のユニットのベスト 100 候補について、選定理由を説明してください。

審 査 方 法

二次審査会では様々な特性を持つ応募対象の現品が設置されるため、審査ユニットによって適切な審査方法は異なります。リーダーを中心に審査方法を協議し、適切な方法で審査を行ってください。なお、審査においては必ず「合議によって合否の決定」を行ってください。また、審査にあたり原則として審査委員一名に対し、補助員を一名配置します。以下に通常想定される審査方法を示します。基本的にはこの方法を基準に審査方法の設定を行ってください。

1. 応募対象の確認および個別投票

各審査委員は個別に応募対象現品またはその代替物と応募シートを確認し、優れたデザインと認める対象に投票を行います。

2. 対話型審査に向けた事前調整

審査二日目に実施される対話型審査に向け、リーダーを中心にディスカッションを行った上で、対話型審査時に確認・質疑するポイント等について調整を行います。

3. 対話型審査の実施

指定の時間に巡回しながら応募者と質疑応答を行い、応募対象への理解をさらに深めます。

4. 合議による合否の決定

個別投票結果および対話型審査結果を踏まえ、リーダーを中心にディスカッションを行った上で合否を決定します。

5. ベスト100候補の選定

二次審査会の結果を踏まえ、リーダーを中心にディスカッションを行った上でグッドデザイン・ベスト100候補の選出を行います。

特別な審査

二次審査会では応募対象の特性に合わせて様々な審査を行います。以下に示したものの以外であっても、必要な場合は自由に審査を設定できます。

1. 対話型審査（審査2日目）

応募された対象についてより深く理解するため、応募者と直接に質疑応答を行う審査です。対話型審査は応募者の希望によって実施されます。対話型審査を希望した応募者は事務局が指定した時間に自身が応募した対象の前で待機していますので、順次これらを巡回しながら応募者との質疑応答を行います。なお、対話型審査においては以下のルールが設定されています。

1. 審査時間は1応募対象につき3分間以内とします
2. 1応募対象につき説明員は1名のみとします

また、対話型審査では以下の時間配分を想定していますが、重点的に確認したい事項等がある場合は時間配分を自由に変更できます。

1. 応募者によるデザインのポイントに関する説明（1分～1分30秒）
2. 質疑応答（1分～1分30秒）

対話型審査は審査行為であると同時に応募者へ「気づき」を提供する場でもあります。審査において気づいた事は、直接応募者に伝達していただいても構いません。

2. 未発表審査（審査1日目）

グッドデザイン賞では二次審査会の段階において開発途中の製品であっても応募することができます。この場合、情報が漏えいしないように機密性の高い別室で審査を行います。未発表審査を希望した応募者は事務局が指定した時間に別室で応募対象の展示を行いますので、順次これらを巡回し審査を行います。未発表審査は原則として対話型審査と同様のルールで運用します。

3. 現地審査（個別に指定）

現品の展示が困難な対象のうち、各審査ユニットの合議において「現地に行き、実際に確認をした方がよい」と判断されるものがあります。この場合、各審査ユニットより現地審査を応募者に要請し、現地で実物を確認する審査を実施することが出来ます。現地審査を実施する場合は二次審査期間内に応募者と調整を行った上で、実施します。

1. ベスト 100 候補の提出

ベスト 100 候補について、以下のルールに基づいて順位づけを行った上で「ベスト 100 候補連絡票」に必要事項を記載し、提出を行います。

優先順位	審査番号	固有名称	本商品	フォーカス・イシュー（審査するもの）(○) (審査不可)																
				機能性	デザイン	環境性	社会性	経済性	安全性	健康性	利便性	付加価値	その他							
1																				
2																				
3																				
4																				
5																				
6																				
7																				
8																				
9																				
10																				

⑤ 順位

③ 赤ライン

④ 青ライン

① 候補の名前

② イシューのチェック

(記入方法)

リスト上位から「ベスト 100 に相応しいと思われる順」に「審査番号・応募対象名」を記載します。

また、各候補について「該当するフォーカス・イシュー」についてチェックを入れます。

その後、上位 3 位以内を限度に「必ずベスト 100 にするべきである」と考える順位の箇所に**赤いライン**を引きます。次に上位 6 位以内を限度に「出来ればベスト 100 に推したい」と考える順位の箇所に**青いライン**を引きます。各審査ユニットから選出できるベスト 100 候補は 10 件を上限とします。

(赤ラインと青ラインの意味について)

グッドデザイン・ベスト 100 選考会では、各審査ユニットの見識をなるべく尊重します。「赤ライン以上」となった候補はベスト 100 選考会において内容および評価のポイントを確認後、異論が出ない限り、ベスト 100 内定となります。青ラインについては、ベスト 100 を選出するための「第一回投票対象」となります。

2. ベスト 100 候補の確認

二次審査会 3 日目の午後より審査委員長および審査副委員長、各審査ユニットのリーダー、フォーカス・イシュー・ディレクターにより、二次審査会場内に展示されているベスト 100 候補を順次往訪し、確認を行います。確認にあたっては、各候補について該当する審査ユニットのリーダーが当該展示の前で「評価のポイント」について 1 件につき 30 秒程度で説明を行います。

■ 事務局による判定結果の確認

二次審査判定会の結果について事務局によってその妥当性を確認します。

審議事項が生じた場合には、各審査ユニットで再度協議を行います。

■ 審査確定会（リーダーのみ）

二次審査会において各審査ユニットで提出した「ベスト 100 候補」をもとに、グッドデザイン・ベスト 100 を選定する会です。

タスク

1. 二次審査の合否確認

各審査ユニットで出した合否結果を改めて見直し、その合否に間違いがないかを確認してください。また、他の審査ユニットの結果も閲覧し、それぞれにおいて異議がないかを確認してください。異議がある場合は、当該審査ユニット・リーダーと合議の上、合否を決定してください。合議において決着がつかない場合は、審査委員長・副委員長が最終的な判断を行います。これと同じ要領で事務局からの審議事項についても最終的な判断を行ってください。

■ ベスト 100 選考会（リーダー および フォーカス・イシュー・ディレクターのみ）

二次審査会において各審査ユニットで提出した「ベスト 100 候補」をもとに、グッドデザイン・ベスト 100 を選定する会です。

タ ス ク

1. グッドデザイン・ベスト 100 の選定

参加者全員のディスカッション、投票等により「グッドデザイン・ベスト 100」を決定します。

2. 各イシュー・ディレクターによるプレゼンテーション

各イシューに関して「審査を通じて発見したこと」や「今、重要な課題や今後の可能性」について担当イシュー・ディレクターより各 3 分程度でプレゼンテーションしていただきます。

ベ ス ト 1 0 0 の 選 出 方 法

グッドデザイン・ベスト 100 は以下の手順によって選出します。

1. 各審査ユニットにおける順位づけの確認・調整

事務局はベスト 100 選考会が開始される前までに、選考会会場の壁面に全審査ユニットのベスト 100 候補について、順位づけおよび赤・青ライン規則を順守した上で掲示を行います。各審査ユニットのリーダーおよびフォーカス・イシュー・ディレクターは壁面に掲示されたベスト 100 候補を確認の上、全体のバランスを確認しながら順位および各ラインの確認・修正を行います。

2. 赤ライン以上にある候補の確認と内定

赤ライン以上にあるベスト 100 候補について 1 件毎に各審査ユニット・リーダーより評価のポイントについて 30 秒程度で説明していただきます。すべての説明が終了した後、ベスト 100 内定の確認を行います。この際、ベスト 100 内定について異議のある場合は挙手により申し立てを行い、合議を行います。異議の生じた対象については、合議後に挙手により採決を行います。この時、票数が同率であった場合、審査委員長権限により結論を決定します。なお、海外審査ユニット等により二次審査会においてベスト 100 選考会構成員の半数以上が展示を確認していない対象については、当該審査ユニット・リーダーからの説明時間を 2 分程度とします。

3. 第一回目投票および内定

「2」によって内定したものを除くすべての青ライン以上の候補を対象に第一回目投票を行います。なお、第一回目投票にあたり、各審査ユニット・リーダーおよびイシュー・ディレクターから各候補について評価のポイントを 30 秒程度で説明していただきます。その後、1 名あたり 20 対象程度を上限に投票を行います。この際の上限值については、審査委員長が判断します。投票結果に基づき、上位 30% 程度（20 件程度）をベスト 100 内定とします。この時の内定ラインについては、全体の得票差を鑑み、審査委員長が素案を示した上で合議により決定します。

4. 第二回目投票およびベスト 100 全件の内定

残っているベスト 100 候補から各審査ユニット・リーダーおよびイシュー・ディレクターは「特に推薦したい対象」を選定し、それぞれの評価のポイントについて計 1 分程度で説明を行います。その後、1 名あたり 10 対象程度を上限に投票を行います。この際の上限值については、「3」と同様に審査委員長が判断を行います。

投票結果に基づき、得票数の高い順に総内定数が 100 件になるまで内定を行います。この時、ボーダーライン上において得票数が同数となった場合は、ボーダーライン上にある対象について再度投票を行い、ベスト 100 全件を決定します。この時、取り下げおよび意匠権調査による失格に備え、補欠候補も同時に選出します。内定対象について失格が生じた場合は、補欠候補を順次繰り上げ内定とします。

■ 金賞および特別賞審査会（リーダー および フォーカス・イシュー・ディレクターのみ）

グッドデザイン・ベスト 100 に選定された対象の中から、さらに特筆すべき優れたデザインを特別賞として選定する会です。

タ ス ク

1. グッドデザイン金賞の選出

投票および合議によりグッドデザイン・ベスト 100 の中からグッドデザイン金賞を選出します。

2. グッドデザイン大賞候補の選出

投票および合議によりグッドデザイン金賞の中からグッドデザイン大賞候補を選定します。

3. グッドデザイン特別賞の選出

投票および合議により金賞以外のグッドデザイン・ベスト 100 の中からグッドデザイン特別賞を選出します。

4. フォーカス・イシューに関するディスカッション

各イシューにおける「時代の傾向や今後の可能性」を示すキーワードについてディスカッションします。

金 賞 ・ 大 賞 候 補 ・ 特 別 賞 の 選 出 方 法

グッドデザイン金賞・大賞候補・特別賞は以下の手順によって選出します。

1. グッドデザイン金賞 第一回目投票

グッドデザイン・ベスト 100 を対象に以下の基準にもとづき 1 名あたり 20 対象程度を上限に投票を行います。この際の上限值については、審査委員長が判断します。

（選出基準）

概念や技術、品質等において、先進性と社会性を兼ね備えた、現在における極めて優れたデザイン（Best of Best）と認められるもの

2. グッドデザイン金賞の内定と第二回目投票対象の抽出

投票結果の「上位約 10 件」を目途に、ある程度票差のついている箇所をボーダーラインとし、金賞を内定します。また、「上位約 30 件」を目途にある程度票差のついている箇所をボーダーラインとし、第二回目投票対象とします。ただし合議の結果によっては得票数が低くても第二回投票対象とする場合があります。

3. グッドデザイン金賞 第二回目投票および内定

第二回目投票対象に対して 1 名あたり 10 対象程度を上限に投票を行います。この際の上限值については、審査委員長が判断します。投票結果から金賞が 20 件になるラインをもって金賞内定とします。同率になった場合は合議の上、決勝投票を行い内定します。この時、取り下げおよび意匠権調査による失格に備え、補欠候補も同時に選出します。内定対象について失格が生じた場合は、補欠候補を順次繰り上げ内定とします。

4. グッドデザイン大賞候補の投票

グッドデザイン金賞を対象に以下の基準にもとづき 1 名あたり 5 対象程度を上限に投票を行います。この際の上限值については、審査委員長が判断します。

（選出基準）

どの大賞候補が大賞に選ばれても「今年（この時代）を語る」べく「審査委員会が今、社会に対して最も訴求したいもの」と認められるもの

5. グッドデザイン大賞候補の内定

投票結果の「上位 5 件」を目途に、ある程度票差のついている箇所をボーダーラインとし、審査委員長・副委員長の了承をもって大賞候補を決定します。この時、取り下げおよび意匠権調査による失格に備え、補欠候補も同時に選出します。内定対象について失格が生じた場合は、補欠候補を順次繰り上げ内定とします。

6. グッドデザイン特別賞候補の選出と投票

グッドデザイン金賞内定候補を除くグッドデザイン・ベスト 100 から各特別賞の条件にあてはまるものを事務局が投票対象として抽出します。抽出された対象に対して各々につき以下の基準にもとづき 1 名あたり 5 対象程度を上限に投票を行います。この際の上限值については、審査委員長が判断します。

(各特別賞の抽出条件)

グッドデザイン特別賞【未来づくり】：新たな事業領域またはビジネスモデルを開拓したもの

グッドデザイン特別賞【ものづくり】：

中小企業かつ製造業または情報サービス業であり、請負または委託事業ではないもの

グッドデザイン特別賞【地域づくり】：地域経済の活性化に対して直接的に貢献しているもの

グッドデザイン特別賞【復興デザイン】：震災復興に対して直接的に貢献しているもの

(各特別賞の選出基準)

グッドデザイン特別賞【未来づくり】：

新たなビジネスまたは新産業の創出に寄与する先端的で優れたデザインとして認めるもの

グッドデザイン特別賞【ものづくり】：

中小企業における製造業または情報サービス業のデザインとして特に優れていると認めるもの

グッドデザイン特別賞【地域づくり】：

地域経済の活性化により、わが国経済の発展に特に寄与すると認めるもの

グッドデザイン特別賞【復興デザイン】：震災復興に対して寄与する優れたデザインとして認めるもの

7. グッドデザイン特別賞の内定

投票結果の「上位 3 件」を目途に、ある程度票差のついている箇所をボーダーラインとし、審査委員長・副委員長の了承をもって大賞候補を決定します。この時、取り下げおよび意匠権調査による失格に備え、補欠候補も同時に選出します。内定対象について失格が生じた場合は、補欠候補を順次繰り上げ内定とします。

6-4. 共有（発表と表彰）

■ アドバイス・評価コメント執筆

応募者や一般生活者へ今後に向けた「気づき」を提供することを目的に実施する評価文です。二次審査会時に各審査ユニットで割り振られた担当に対してコメントの執筆を行ってください。

タ
ス
ク

1. アドバイスコメントの執筆

審査サイトにログインの上、1 対象につき 200 字程度のアドバイスコメントを記入してください。ここで記入したコメントは応募者にもみ伝達されます。

2. 評価コメントの執筆

審査サイトにログインの上、1 受賞対象につき 200 字程度の評価コメントを記入してください。ここで記入した評価コメントの多くは受賞した企業のプレスリリースやその他広報にも使用されますので、表現等に気をつけ執筆をお願いします。

■ 審査報告会（審査ユニット毎に開催）

受賞展（G展）の中で開催する会です。審査を通じて感じたこと、新たに発見したことを応募者や一般生活者の方々に伝達することにより、応募者や一般生活者に新たな「気づき」を提供する会です。

タ
ス
ク

1. 審査報告会への出演

事務局が司会役を行い、「担当ユニットの応募における全体的な傾向」「審査において重視した視点」「審査を通じて発見したこと」などを中心に質問をしますので、総評をお話ください。また、具体的な事例とそれらにおいてどのような議論がなされたかについてお話しいただくと、より聴衆者の理解が深まります。

■ 受賞祝賀会および大賞選出（審査ユニット毎に開催）

グッドデザイン賞受賞者に表彰状の授与を行う会です。同時にグッドデザイン大賞候補者によるプレゼンテーションおよび投票が行われ、グッドデザイン大賞が決定します。

タ
ス
ク

1. 受賞祝賀会への出席

表彰式では多くの受賞者が来場し、審査委員との記念撮影や懇談を望みます。これらに応じていただくとともに、受賞者に対して祝福の言葉やアドバイス、コメントなどを積極的にかけ、応募者に対して新たな「気づき」を提供できるよう、ご協力をお願いいたします。

2. 大賞候補への投票

グッドデザイン大賞候補者による1対象あたり5分程度のプレゼンテーションが行われます。これを聞いていただいたのちに、グッドデザイン大賞の投票を行ってください。投票方法および各審査委員の持ち票数等については、別途お知らせいたします。

■ フォーカス・イシュー提言の執筆（フォーカス・イシュー・ディレクターのみ）

各イシューについて審査を通じて発見した可能性や課題などについて文章化することによって応募者や一般生活者へ今後に向けた「気づき」を提供することを目的に実施する文章です。

タ
ス
ク

1. 各イシューにおける時代の傾向や可能性を示すキーワードの執筆

提言文を読むにあたって心構えをするためのキーワードです。提言文において最も重要となる概念や切り口、事象についてキーワードを執筆ください。キーワードの数が複数になっても構いません。

2. 各イシューの傾向と今後の可能性について言及した提言文の執筆（2,000字程度）

本文部分です。本文内で言及された受賞対象については、別途一覧化およびタグ付けがされます。

6-5. その他

■ その他 特記事項

1. 審査委員長判断による方法の変更について

上述したプロセスおよび方法について何らかの問題が生じた場合、または他の最適な方法が提案された場合など、現場の状況を鑑みた上で審査委員長の判断により変更が行われる場合があります。